

林業振興講演会を開催 ほか



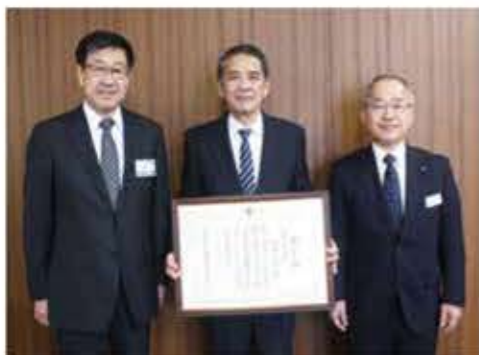
講師を務めた長崎屋室長

講演の結びには次世代の森林づくりを進めるため、「林業に携わる方々の労力を減らし収益性が高まる方策を考えていきたい」と話しました。

林業振興講演会（町主催）が12月21日、町公民館で開催され、十勝管内の市町村林務関係職員、森林組合職員ら約40名が参加しました。

森林環境税の創設にかかわった林野庁森林整備部整備課造林間伐対策室の長崎屋圭太室長が講師を務め、「森林環境税の意義と今後の森林整備について」と題し講演。新税の創設に至るまでの税制改正要望等の経緯や、制度設計について詳細な解説を行い、また、新たな森林管理システムについて意向調査や計画の作成などの具体的な手順を紹介しました。

**次世代の森林づくりを目指して**  
林業関係者を対象とした林業振興講演会を開催



左から浜田正利町長、田中前副町長、坂部浩明北海道十勝総合振興局副局長

平成30年度北海道社会貢献賞（自治功労賞）を受賞した田中透嗣前副町長への伝達式が12月25日に行われました。

田中前副町長は昭和53年に役場へ入庁し27年間勤務。平成17年からは副町長を3期12年務められ、永きにわたり地方公共団体の職員として職務に精励されました。

田中前副町長は「町民の皆さんと職員の皆さんの支えの中で3期12年を務めることができた。今後町に役に立てるようなことがあれば、精一杯協力したい」と話しました。

**町の発展に多大な貢献 田中前副町長が受賞**  
田中透嗣前副町長が北海道社会貢献賞を受賞

平成30年度全国中学生人権作文コンテスト十勝地区大会で大山さんが入賞 ほか



左から佐々木委員、大山さん、石割章浩校長

平成30年度全国中学生人権作文コンテスト十勝地区大会で新得中学校3年の大山ことみさんの作文「労働者の人権」が奨励賞に入賞しました。

同コンテストは豊かな人権感覚を身につけることを目的に開催され、十勝管内から791編の応募があり、大山さんは初応募での入賞となりました。

表彰状の伝達は12月10日に新得中学校で行われ、佐々木裕二町人権擁護委員から表彰状が手渡されました。

**林さんが税についての作文で入選**  
第52回（平成30年度）中学生の税についての作文



表彰を受けた林さん（左）と石割校長

全国納税貯蓄組合連合会と国税庁が主催する第52回（平成30年度）中学生の税についての作文で新得中学校3年の林向日葵さんが入選し、12月6日に表彰を受けました。

今年度は帯広税務署管内から1320編の応募があり、林さんの中から入選。新得町長賞として表彰が行われました。

新得中学校では、毎年作文を応募しているほか租税教室の開催など、税に関する教育に取り組んでいます。

**全道大会への意気込み語る**  
屈足中学校生徒3人が全道大会出場報告



左から武田教育長、浪岡さん、鳥井さん、渡辺さん

全道大会に出場する屈足中学校の生徒3人が12月12日に武田芳秋教育長の元を訪れ、出場に向けて意気込みを語りました。

2年の浪岡さんは「スポーツに絶対は無い。油断せず、自分の一番良い滑りをしてまずは決勝進出を決め、昨年に続き全道大会出場を果たしたい」と話し、武田教育長が3人を激励しました。

出場生徒と種目は次のとおり

- ・浪岡大裕（2年）スピードスケート500m、1000m
- ・鳥井洸洋（1年）スピードスケート1000m、3000m
- ・渡辺陸玖（1年）クロスカントリースキー（5km）クラシカル、フリー

**宮城屋旅館に金マーク交付**  
防火対象物表示マーク交付式



交付を受ける金沢代表（右）と増田和彦新得消防署長

ホテル・旅館等からの申請に基づき消防機関が審査、交付する表示マーク交付制度の交付式が12月3日に新得消防署で行われ、宮城屋旅館（金沢陽子代表）が「金の適マーク」の交付を受けました。

宮城屋旅館は初めて申請を行った平成27年度から3年連続で防火基準に適合し「銀の適マーク」の交付を受けていました。今回4年連続での適合となることから、優良施設として「金の適マーク」が交付されました。

金沢代表は「申請を機に防火意識が高まり、避難訓練を何度も実施し防火対策の自信もつきました。今後より良い施設運営を目指したい」と話しました。

**新庁舎建設の基本方針を提案**  
役場庁舎改築町民検討委員会が建設基本構想案を報告

役場庁舎改築町民検討委員会（西田秀稔委員長）が12月12日、検討結果をまとめた建設基本構想案を浜田正利町長に報告しました。

同委員会は、現庁舎の老朽化の度合いや設備の現状、構造上の問題から建て替えの方針を選択。建設場所及び規模、必要な設備や機能等について、約1年間にわたる議論と調査を行い検討を重ねてきました。

素案では早期の建て替えの要望があったうえで、①建て替え年度を2022年度着工とし翌年度完成、②「そば」や「林業」の町としてのイメージを取り入れる、③建築場所は経済性や利便性の観点から現庁舎南側とし、総事業費は約21億円程度などが示されました。

西田委員長は「委員は新得のことを思い、町民目線での庁舎のあり方をまとめた。無理のない範囲で進めてほしい」と話しました。

浜田町長は「検討委員会の



建築から49年が経過し老朽化が進む現在の庁舎



検討結果を浜田町長に報告した西田委員長（中央）と遠藤正紀副委員長（右）

意見を最大限尊重したい。災害時の問題、人口減少が進む中での行政サービスを考えて具体的な案をできるだけ早くまとめていきたい」と応えました。

町では今後、素案をもとに具体案をまとめ町民意見募集（パブリックコメント）を実施し、基本構想の策定を目指していきます。